

むすびめ通信

エペソ 4:16



湯本沙友里 ニュースレター



お祈りと暖かい励ましに、心より感謝いたします。
アフリカのエチオピアでの働きに関わることに導かれ、
2017年6月18日から滞在中です。11月まで現地調査を
して、帰国後に、今後の具体的な計画を立てていく予定です。

3年ぶりのエチオピア ～急激な経済成長～

エチオピアに来て早くも3か月が経ちました。約3年ぶりに降り立ったエチオピアの首都アジスアベバの街並みは驚くほど発展し、高層ビルや車の数がかなり増加した印象を受けます。電車が開通し、以前は1カ所にしかなかった信号機も街の至る所でみかけ、交通整備をする警察官の姿も増えました。街の急速な発展と同時に、大気汚染も著しく東京の5倍の汚染値だそうです。1日外で活動していると、目や鼻、髪がとても汚れ、アレルギー反応なのか目が何度か腫れました。



写真右：FVIのパートナー団体 (Harvest) の代表、デメラシユ氏。インターネットを用いた技術開発に取り組む、エチオピア企業や個人が事業を宣伝するための、第一回 ICTイベントが開催されました。



会場の様子。大学でテクノロジーを学んでいる学生や若手企業家、エチオピア展開を考える外国企業などが多く見られました。

経済発展が進み富裕層も増加する中、依然として変わらないのが路上生活者の数です。その数は8万人と言われていますが、正確な数字は分かっていません。大人やシングルマザー、障害を抱えた方など様々な人を路上で見かけることは3年前と変わらず、中でも子どもたちはかなりの数です。アジスアベバの発展にあやかりとうと地方から出稼ぎや教育を受けにやってきますが、見つけることは難しく、路上生活をせざるを得ないのです。売春により生計を立てている女性も後を絶たず、利用者の所得に合わせて女性達のランク分けまでされています。富裕層を相手とする女性たちは、高収入を得られるので、売春から手を引くことを拒むと言います。

仕事が少ない現状

エチオピアの人口は年々増加し、近々1億人に達すると言われていています。80%が35歳以下の若者で、大卒でも約半数の人が仕事を見つけられない状況にあるといえます。

経済発展が進んでいても、職場が少ない理由は大きく3つ、政府の汚職、大学教育が実社会に基づいておらず実践が伴っていないこと、そして高い税率だといえます。政府の権力によって一部の部族だけが優遇されているため事業を立ち上げるのが難しかったり、大学を卒業しても即戦力になれず、学んだことを生かした職に就いたり事業を興せなかったり、経営していく中で高い税金の支払いに追われて倒産、もしくは事業を拡張し雇用を増やすことが難しいこと等が挙げられます。テナントの入っていないビルばかりが建設され続け、土地や建物の値は恐ろしく跳ね上がっています。

大卒のエリートは政府や国際機関、外資系 NGO に勤めると良い収入が得られます。仕事で成功するには汚職に手を染めても仕方がないという考えや、高学歴層が、コツコツ仕事を積み上げていくことより、如何に手っ取り早く稼げるか、人の上に立ち支配するかという考えを根底に持ち、リーダーシップを握っていることも問題だと聞きました。正しい視点と倫理観を持ち、理論だけでなく経験に基づいた指導ができ、人の為に働きを担えるリーダーの存在が求められていると感じています。

この3か月で関わってきた働き

① EvaSUE(エヴァス)への参加

Evangelical Students and Graduates Union of Ethiopia

EvaSUE(エヴァス)とは、クリスチャン大学生たちが聖書を学んだり自主活動を行うネットワークです。50年近くの歴史を持ちます。スタッフたちは彼らの主体性を尊重し、大学生に聖書の価値観をトレーニングしたり、彼らが行う地域での慈善活動や教会での奉仕などをサポートしたりしています。私はこの団体の本部事務所での働きの手伝いや、彼らが開催するトレーニングに参加するなどしています。



EvaSUEの事務所で働くスタッフたち



別の団体にEvaSUEが協力して行われた、20代前半の次世代リーダーを育てるための40日間訓練合宿を訪問。私も少し話をさせてもらいました。

大学は6月下旬から10月上旬まで夏季休暇中のため、キャンパス内での取組に参加することは未だできていませんが、エチオピア全国の大学からキャンパスのリーダー達が集まって聖書の学びを行う「ナショナルトレーニング」に参加する機会がありました。全国から約430人のリーダー達が1週間、寝食を共にしながら早朝から夕方まで聖書について学びます。リーダーは立候補制なので、積極的で主体性のある生徒ばかりが集まっています。実生活に基づいた、社会の弱い立場の人に目をとめた生き方や、人に仕える真のリーダーシップの教え、小さなコミュニティを築いて互いに支えあうことなどを含む聖書の価値観をリーダーたちに教え、異なるキャンパスの生徒たちを繋ぎ互いに学び合い支え合い励まし合い、新たな挑戦ができる土台を提供していくのがこのトレーニングの目的です。



毎日6時からの早朝の祈りに始まり、午前は全体集会を行います。



学生たちとの昼食。

全体での記念撮影

生徒たちは毎日楽しみながら真剣に、疲れも見せるどころか毎日熱心に講義を受け、新しい仲間をつくって一緒に祈りあい、夜遅くまで賛美していました。何人かの生徒に、なぜリーダーになろうと思ったのか話を聞きました。その中で驚いたことは、裕福な家庭で育った生徒が10代の頃に抱えていた「孤独感と自殺願望」から立ち上がった話でした。エチオピアはコミュニティ性が強く、親族や友人同士はもちろん、近所や知らない人同士でも助け合う文化があるため、「孤独」という言葉からはまだほど遠い環境にあるように感じていました。しかし、今回2人もの若者が、忙しい家庭で育ち「孤独」を抱え、生きる意味を見失っていた頃があったと言いました。そこからイエスキリストに出会い、彼らは回復され、次世代の若者に仕えるリーダーになりたいという願いから、今回のトレーニングに参加したと言います。これは、急発展するエチオピア社会に近年起り始めた、新たな問題の種なのかもしれないと思われました。

貧困問題に関わる NGO の取組み

ストリートチルドレンや、売春をして生計を立てている女性達の問題が、エチオピアでは深刻です。私が2013年に活動をさせてもらっていた NGO は、そのような貧困に直面する人々に向けて幅広い支援活動を行う大きな組織です。特に女性たちの支援修了後の自立に向けた取り組みに関心があった私は、今回も同じ団体の働きに参加し、受益中の若い女性たちと時間を過ごしたり、学校の夏学級で授業を行ったり等の活動を行いました。



支援されなければ、困難な状況から抜け出すことが出来ない人々が大勢いるというのもエチオピアの現状です。貧富、教育、機会の差は広がるばかりです。これらの団体はその様な人々にとって掛け替えのないセーフティネットです。

このような現状を踏まえつつ、私がこれからどのような分野で貢献ができるか考え続けていました。そして、チャリティ関連の大きな組織に関わりながら活動することが、今後私自身が目指していきたい方向性とは異なる事に気が付き始めて、結果として、その NGO の活動からは離れることにしました。

理由はいくつかあるのですが、自分自身の事として気付かされたことの一つは、大きな組織に繋がっていると、自分には何かができているような、何者かになれたような錯覚に陥ることです。本当に必要な事、していきたいと思っていたことが出来ていなくても、「善い行い」に関わっていることに安堵し、その歯車の一つであることに居場所を見出している自分がいました。エチオピアに来ている外国人で、特に NGO や宣教団体に関わる人々は、この国を良くするための慈善活動を行いに来る人が殆どですので、その流れに巻き込まれているような、同じような何かをしなければいけないという無意識の圧力を感じていたように思います。自分の立場が収まる「型」や「枠組み」を手に入れると、他の人たちとも対等になれたような気がしてきます。型がなくなった時にも、自分の存在が揺るぐことなく、神が喜ばれることを求めながら、働きの土台を築いていきたいと思われています。

そして、現代のエチオピアでは、経済活動により自立に向けて立ち上がる人々が大勢起こされています。ビジネスによって社会を変革し、国をより良くしたいと願う彼らとの繋がりと学びを、今後深めていきたいと思われています。

群れに流されないこと、個を確立すること。

真の貢献をするために大切なことは、周りや社会の流れによって自分の立ち位置や居場所をつくるような「群れること」ではなく、「個」を確立させることだという気付きがありました。個人がそれぞれの意思と志を持ち、繋がっていく共同体の在り方を考えさせられています。人にとっての善いとされる行いは時代によって変わり「数、規模、効率的なこと」が評価される現代において、そこに囚われず、本当に大切なことは何かを選び取れるように祈り求めていきたいと願います。

この3か月間は、急成長する街の変化、貧富の差、社会問題への取り組み方や考え方の違い、3年前に親しくしていた友人たちの成長と変化、異文化への適応、この国での自分の立ち位置や関わり方、など、この場に身を置くことに必死だったように思います。後半は、何を考えて、どのように貢献したらよいか分からなくなり、身動きが取れずにいたというのが正直なところです。

大きな状況の変化、計画していた事とのギャップや、思ってもみなかった経験、そして多くの学びがあった怒涛の3か月を通し、渡航前に計画していたことを一度リセットして、今後の事を考え直し再構築する時間を残り1ヶ月間で持って行きたいと思っています。

休息の時となったルワンダ訪問

ビザの更新のため一時的にエチオピアを離れる必要があり、兼ねてから関心のあったルワンダを訪問しました。また、一人静まる時間を持って、本当に大切なことを大切にすること、イエスを求めていくことと、それを行う人の心がどうであるかを探られる主のみこころを、求め直そうと思いました。

ルワンダは、ジェノサイド(大虐殺)の歴史があります。また、長年アフリカで活動を行ってきた日本人宣教師の方も滞在されており、お会いすることができ、思っていた以上の恵み豊かな時を過ごすことができ感謝でした。詳細は、また別の機会にご報告できたらと思います。



日本人宣教師女性が行っている、トラウマを抱えた女性を支援する働きを訪問。



1994年に100日間で100万人の人々が殺されたジェノサイド(大虐殺)の現場の一つであった教会を訪問。

祈りの課題

- ・静まることを忘れず、主の願われる働きに参加していただけるように、計画を立てていけるように。
- ・エチオピアでも主を求め生きる方々と良い関係を築きながら、共に働きを担っていけるように。

ご案内

YouTube はじめました。

チャンネル名：

「MUSUBIME works」

エチオピアのイメージが伝わるよう、現地での活動や日常の様子を動画で紹介しています。ぜひご覧ください。



■「声なき者の友」の輪 (FVI) ウェブサイト
(FVI...Friends with the Voiceless International)

<http://karashi.net/> 「共に喜ぶ世界」で検索

■ホームページ制作事業「むすびめワークス」

<http://musubime-works.com/>

エチオピアでの働きをしながら、フリーランスのウェブデザイナーとしての仕事を継続しています。教会やNPO、アフリカと日本を繋ぐ起業家のホームページ作りを行っています。

連絡先

湯本 沙友里 Sayuri Yumoto

Email : sayuri@karashi.net

支援のための献金方法

「声なき者の友」の輪 Friends with the voiceless International (FVI) の働きのために、お祈り、ご支援をよろしく願いいたします。活動報告は随時、ホームページでご覧いただけます。

経済的支援をもってご協力くださる方はお手数ですが以下の口座にお振込みください。

ご支援を心より感謝いたします。

ゆうちょ振替口座 口座番号：00180-0-300201

名義：FVI

湯本支援は通信欄に「湯本指定」とご記入ください。

「湯本指定」の支援金は、現地滞在費を含む、活動費全般に充てられます。

会計報告はFVIの年次報告をもって代えさせていただきます。過去の会計報告はFVIホームページよりご覧いただけます。